日本イギリス哲学会関東部会 第 96 回研究例会

日時　2015 年 12 月 5 日（土）14:00～17:15
場所　慶應義塾大学三田キャンパス　研究室棟　1 階　A 会議室

プログラム

14:00～15:30

能動化する情念

平川　己津子（早稲田大学大学院）

15:45～17:15

ホッブズの自然状態における共同行為の可能性

板橋　綾（慶應義塾大学大学院）

関東部会担当　只腰親和（tchika◎tamacc.chuo-u.ac.jp）
矢嶋直規（yajima◎icu.ac.jp）
（◎を＠にお直しください）

日本イギリス哲学会関東部会第 96 回例会（2015 年 12 月 5 日、慶應義塾大学）

【報告要旨】

能動化する情念

平川　己津子（早稲田大学大学院）

ヒュームは『人間本性論』で「情念は根源的な存在、あるいはそういいたければ、根源的存在の変様 (modification)である」といい、情念こそが意志の動機であるとする。情念(passion)は、受動(passive)を語義としており、本来は受動的なものである。ヒューム以前の形而上学的議論においては、「理性が情念に優先され、行動の統御が理性によって成されている」とされた。しかしヒュームはそれを退け、理性は単なる方向付けを行うだけであり、情念が理性に優越するとした。さらにヒュームは情念こそ意志作用を生むのだとする。(『人間本性論』第二巻第三部第三節)

ヒュームが情念を理性に優先させ、意志の動機とする理由として、報告者は本来受動的である情念が変様し能動化することにあると考える。情念の能動化によって情念の対象(object)である自己との関係が生まれ、意志を生成させる。このことをドゥルーズは、経験を与えられている受動態が、判断する能動態へと変様すると解釈する。この時自己が主体(subject)として定立するとして、ドゥルーズは「所与からの超出」を論じる。言い換えれば「所与からの超出」は、受動態である情念が同時に能動態を帯びることで、自己を主体として捉えるということである。

ヒュームを論じる際に、ドゥルーズのヒューム研究が取り上げられることは少ない。しかし本報告ではドゥルーズのヒューム解釈を援用して、情念が受動態であると同時に能動性を帯びるその事態を論証する。能動化する情念を明示することで、情念が意志の動機となる事態を明らかにする。

【報告要旨】

ホッブズの自然状態における共同行為の可能性

板橋　綾（慶應義塾大学大学院）

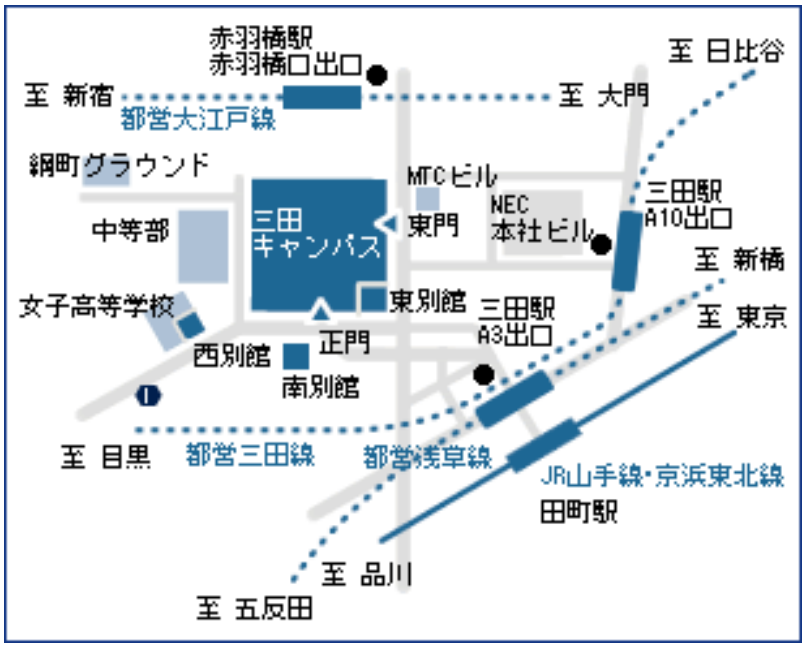
ホッブズの社会契約は、主権の正当性の確保を目的とした擬制であるが、多くの思想家たちによって論理構造における破綻を指摘され、有効性が退けられてきた。その問題点とは、特に、自然状態におかれた人々が、いかにして人為的人格への自然権委譲の合意へと至るのかというものである。

ホッブズは、自然状態を「各人が各人に対して敵」である状態として描写し、国家の支配下にない生来の人間の孤立性や残忍さを強調する。従来、このホッブズの自然状態は囚人のジレンマによって解釈されてきた。このモデルに則れば、非協力がもっともリスクの少ない選択となるため、人々は相互の協力によってはじめて利益が生じる自然権放棄を選択せず、社会契約をむすぶことができない。その上、そもそも人々は社会契約を結ぶまで全くの没交渉であるから、相互不信によって敵として認識している相手との自然権放棄の合意は不可能である。

それに対し、本報告は、社会契約を自然状態における相互のコミュニケーションを前提とした共同行為として捉え、上記の問題点の解決を試みる。（なお、本報告で共同行為と呼称する行為は、複数人の間で目的の共有がなされ、それが遂行まで維持されているような行為である。）そして、共同行為としての社会契約をむすぶためには、人々が自然状態において社会契約以前に共同行為を行うことで、相手を信頼することが必要である。

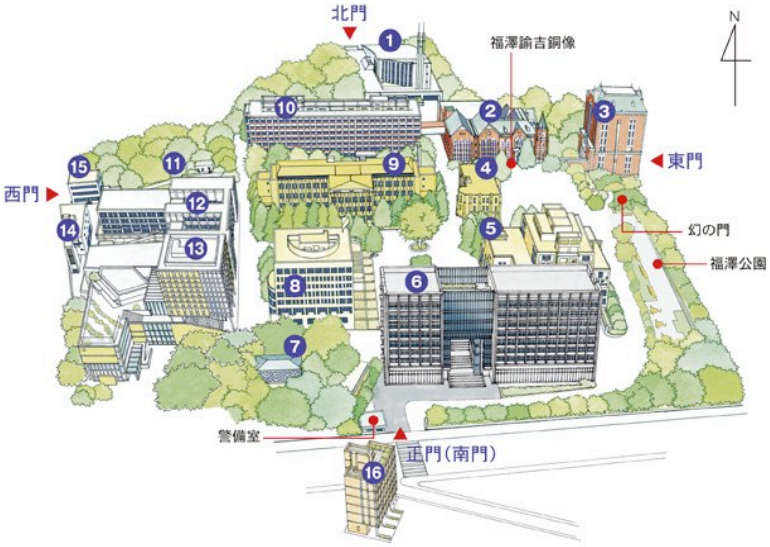
自然状態における人々は、社会契約という共同行為以前にも、共通の敵の排除という目的で共同行為を行っており、共同行為の相手が、一時的であれ自分の味方であるという経験を持つことができる。自然状態における共同行為は、ホッブズの政治理論に照らし合わせると、第三自然法「人々は、結ばれた信約を履行すべきである」の遵守が付随する、信約の原型というべきものである。人々は、利己的な動機にもとづいて共同行為を遂行する経験を分かちもつことによってはじめて、自然法を遵守させる場としての国家の設立を望みうる。本報告は、共同行為の経験が社会契約へと至る心理的動機の一部を担い、そこで形成された人々のコミュニケーション、及び信頼関係が社会契約を成立させるという解釈を提出するものである。

【会場案内】



108-8345　東京都港区三田 2-15-45

JR 山手線・京浜東北線　田町駅下車、徒歩 8 分
都営地下鉄浅草線・三田線　三田駅下車、徒歩 7 分
都営地下鉄大江戸線　赤羽橋下車、徒歩 8 分



研究室棟は⑩の建物です